

【生徒の様子】(陶工班9人)

- 作業は一つ一つ役割分担して行い、一つの作業には集中して取り組めるが、作業スキルは個人差がみられる。自分の作業工程が陶工製作全体のどの部分にあたるのかを理解している生徒は少ない。
- 作業中のコミュニケーションでは、決められた形での報告は行えるようになってきているが、**話しかけるタイミング**がつかめなかったり、**報告**自体を忘れてしまったりするなどの場面もある。また、相談にいたっては、どの場面で**何を相談すればいいのか**をつかめない生徒もいるなど実態は様々である。
- 作業時間中、集中力が途切れることなくより良い製品を作ろうとする姿が見られ、働く意欲が高い生徒たちである。



【本題材における「育成を目指す資質・能力」との関連】

「知識・技能」	「思考力・判断力・表現力等」	「関心・意欲・態度」
○はたらくために必要な知識・技能 ○コミュニケーションに関する知識・技能	○自己を振り返り課題を見いだし解決する力 ○状況に応じて判断する力・対応する力	○自らを振り返り改善しようする態度 ○人々とかかわり、協力・協働しようとする態度 ○学ぶ、はたらくことに対してやりがいを感じ、意欲的・主体的に取り組む態度

【題材の目標】

「知識・技能」	「思考力・判断力・表現力等」	「関心・意欲・態度」
○作業で使う用具や道具を適切に使うことができ、様々な工程のスキルを身につけることができる。 ○場や状況に応じた礼儀や言葉遣いができる。	○振り返りの時間を通して、自分の課題や良い点に気づき次の目標に生かすことができる。 ○わからない時や困った時に相談することで、状況に応じた行動ができる。 ○自分にできる作業を自ら選択することができる。	○製品管理をする振り返りの時間で、製作する製品についての話し合いに参加することができる。 ○自分の良い点や課題を見つけ、製品作りにいかすことができる。

【題材の計画】

次	1期 (6月~7月)	2期 (9月~10月)	3期 (10月~12月)	4期 (1月~2月)
学習内容	自分の担当の仕事内容を覚えよう。	一連の流れの中で、自分の担当の仕事内容を覚えよう。	全体の作業の流れを知り、自分の担当の仕事を丁寧に仕上げよう。	全体の作業の流れの中で、製造部・管理部・販売促進部に分かれ、お客様に喜ばれる製品作りをしよう。
育成を目指す力	○はたらくために必要な知識・技能 ○コミュニケーションに関する知識・技能	○はたらくために必要な知識・技能 ○自らを振り返り改善しようとする力 ○人々とかかわり協力・協働しようとする態度	○自己を振り返り課題を見出し解決する力 ○学ぶ、はたらくことに対してやりがいを感じ、意欲的・主体的に取り組む態度 ○状況に応じて判断する力・対応する力	○学ぶ、はたらくことに対してやりがいを感じ、意欲的・主体的に取り組む態度 ○人々とかかわり協力・協働しようとする態度

【アクティブラーニングの視点に立った授業づくりの工夫（主体的・対話的で深い学びのために）】

<主体的な学びのために> a 作業の工程のスキルを身につけるために、作業で使う用具や道具の適切な使い方を視覚的に提示する。 b 様々な作業工程を経験することで、自分で作業工程を選択できるようにする。 c 本時の目標が意識できるように出来高表やワークシートを提示する。 d 自分の作業担当が全体のどの部分に当たるのか見通しが持てるよう、全体の製作の流れを提示する。 	<対話的な学びのために> e 報告・返事・相談など状況に応じたコミュニケーションが行える場面を設定する。 f 製作が必要な製品を話し合う場面を設定する。 g 保護者や学生、地域の方々に対して接客を行い、自己の良い点や課題となる点に気づくことができる。 	<深い学びのために> h 自分の目標や課題を明確にするために、活動後に振り返りの場面を設定する。 i 製品作りの計画を立てことができるように、製品管理をする時間を設ける。 j 接客の中で学んだ自分の課題について様々な場面で活かせるよう、日常生活や各教科等の学習場面でも題材として扱う。
---	--	---

【結果】

b



陶工班の生徒は多くの工程を経験している。



d



今日はラッピングが足りないから、仕上げの個数を減らして2つめの作業としてラッピングができるにしようっと！

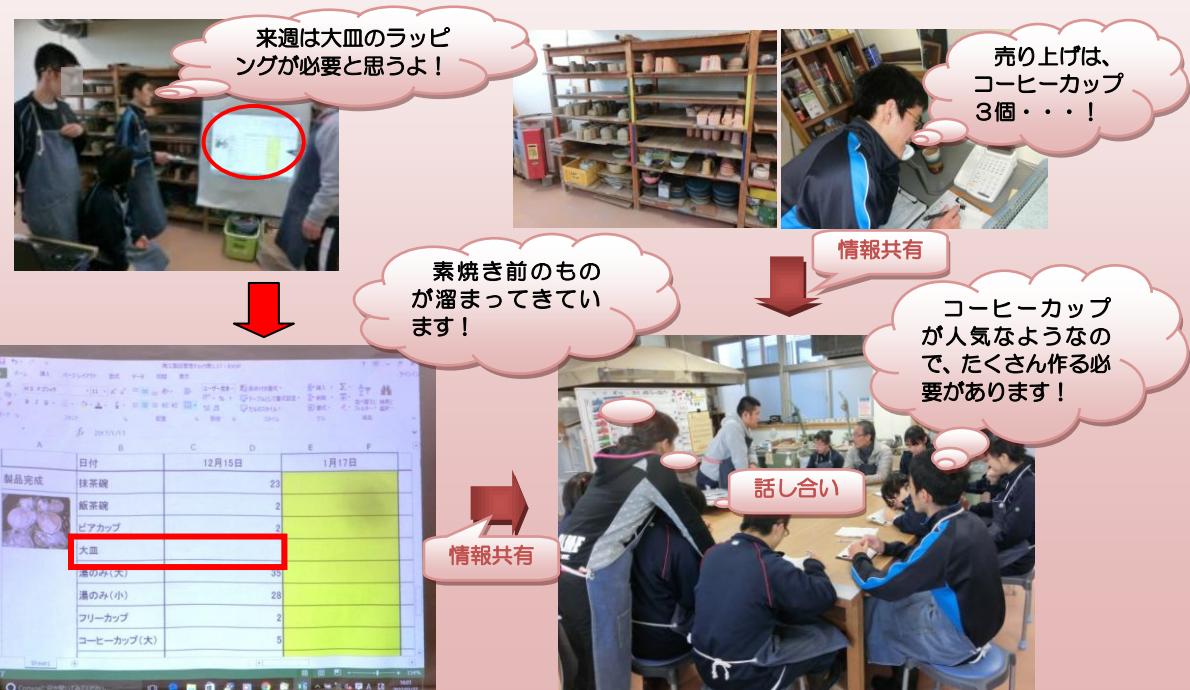


i



製品管理の担当部門を作り、自分たちで素焼き前・素焼き後・本焼き後・ラッピング完成品のそれぞれ個数を数えるようにした。管理担当者はエクセルを使って表にそれぞれの個数を入力した。

f



【考察】

作業工程を視覚的に提示し、繰り返しつづつ行っていくことで、**作業スキルを高める**ことができた。また「やってみたい」「挑戦したい」という思いを大切にすることで、多くの生徒が**様々な工程に取り組む**ことができるようになった。スキルアップが自信につながり、作業に**主体的**に取り組むようになった。

全体の作業工程の見通しが持てるようになれば、毎時間の目標達成数を明確にすることで、限られた作業時間の中で自分ができる作業を選択したり、複数の作業工程に取り組む際に自ら目標数の調整をしたりすることができるようになった。このことから限られた時間を工夫して使えるようになる**思考力**や自分の出来ることを作業にいかしていく**判断力**が身についてきた。

製作が必要な製品を検討する場を持つことで、**協力**して作業を進めようとする姿や、もっとたくさんの製品を作りたいと**やりがい**を感じ、**意欲的**に作業に取り組むことができた。また、すすかけ祭りやショップでの売り上げの様子を見て、喜んで購入していただけるようにという意識も高まってきた。